

授業科目	小児看護学概論	担当講師	専任教員 (実務経験のある看護師)
開講年次	2年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	小児看護の理念・目的と子どもの権利を尊重した看護について理解する。 子どもの成長発達の特徴と、子どもを取り巻く環境を理解する。		
使用テキスト	系統看護学講座「小児看護学概論 小児臨床看護総論」医学書院		
評価方法	試験、課題への取り組みと課題提出により総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 小児看護の理念・目的・役割	6	1 小児看護のめざすところ 1) 小児看護の対象 2) 小児看護の目標と役割 2 小児看護の変遷と現代小児医療・看護の課題 3 小児看護における倫理 1) 子どもの権利 2) 医療現場における倫理的課題	
2. 子どもを取り巻く社会の変化と子育て支援	6	1 統計からみた子どもの健康 2 子どもにとっての家族 3 子どもを取り巻く環境 1) 暮らしの中の子育て支援設備 2) 身近な子育て支援事業 3) 遊びの場・環境 4 子どもと親を支援するための法律・施策 1) 児童福祉 2) 母子保健 3) 医療費支援 4) 予防接種 5) 学校保健	子どもを取り巻く環境についてフィールドワーク
3. 子どもの成長発達	18	1 小児期の成長発達の基本的特性 1) 小児看護学における発達論 2) 小児期の発達段階の区分 3) 発達の領域 2 成長発達の一般的原則と影響因子 3 小児各期の成長発達 1) 形態的特徴 2) 身体整理の特徴 3) 感覚機能 4) 運動機能 5) 知的機能 6) コミュニケーション機能 7) 情緒・社会的機能 8) 遊びの支援 4 成長発達の評価	発達段階の特徴を踏まえた遊びの支援について演習

授業科目	小児看護学方法論 I	担当講師	専任教員(実務経験のある看護師) 非常勤講師(実務経験のある保育士)
開講年次	2年次	単位数・時間数	1単位・15時間
科目目標	発達段階における日常生活の特徴と健康増進のための看護を理解する。 身体的な状態を評価し生活援助に必要な情報を得る方法について理解する。		
使用テキスト	系統看護学講座「小児看護学概論 小児臨床看護総論」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 小児各期の養育および看護	10	1 日常生活の自立 1) 基本的な生活習慣の確立 2) 社会的な生活習慣の形成 2 乳幼児期の日常生活の世話 1) 食事の世話 2) 排泄の世話 3) 衣服の世話 4) 清潔の世話 5) 睡眠の世話 3 乳幼児期の事故防止・感染防止 4 育児支援 5 乳幼児の生活と保育 1) 保育の基本と目標 2) 心身の健康と保健管理 6 学童・思春期の養育と看護	保育士による講義
2. 子どもの日常生活援助技術	1	1 乳児の抱き方 2 おむつの当て方・交換 3 衣服の着脱の仕方	校内実習
3. 身体計測の技術	3	1 身体計測の留意点 2 計測技術 1) 体重 2) 身長 3) 頭囲 4) 大泉門 5) 胸囲 6) 腹囲	DVD 視聴 校内実習
	1	試験	

授業科目	小児看護学方法論Ⅱ	担当講師	非常勤講師(実務経験のある医師) 専任教員(実務経験のある看護師)
開講年次	2年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	小児期に発症しうる疾患の特徴と治療上の注意点を学び、健康障害の経過に応じた子どもと家族の看護について理解する。		
使用テキスト	系統看護学講座「小児臨床看護各論」医学書院 系統看護学講座「小児看護学概論 小児臨床看護総論」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 小児期に特有な疾患の病態・症状・治療・検査	16	1 染色体異常・先天異常 2 新生児の疾患 3 代謝性疾患 4 内分泌疾患 5 免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患 6 感染症 7 呼吸器疾患 8 循環器疾患 9 消化器疾患 10 血液・造血器疾患 11 悪性新生物 12 腎・泌尿器および生殖器疾患 13 脳神経疾患 14 運動器疾患 15 皮膚科および眼科・耳鼻科疾患 16 精神疾患 17 その他の障害	医師による講義
2. 子どもの健康障害の経過の特徴と看護	2	1 健康障害や入院生活が子どもに与える影響 1) 健康障害のある子どもと家族の看護 2) 子どもの入院 3) 子どもを対象とする外来 4) 虐待の早期発見とケア	
	8	2 急性期にある子どもと家族の看護 1) 急性期の特徴 2) 子どもにみられる急性期の症状 (1) 啼泣・不機嫌 (2) 痛み (3) 呼吸困難 (4) 発熱 (5) 嘔吐 (6) 下痢 (7) 脱水	

	<p>2</p> <p>1</p> <p>1</p>	<p>(8) けいれん・意識障害</p> <p>3) 周手術期にある子どもと家族の看護</p> <p>3 慢性期にある子どもと家族の看護</p> <p>1) 慢性疾患の子ども</p> <p>2) 障害のある子ども</p> <p>3) 医療的ケアを必要とする子ども</p> <p>4 終末期の子どもと家族の看護</p> <p>5 災害による子どもへの影響と看護</p>	
--	----------------------------	---	--

授業科目	小児看護学方法論Ⅲ	担当講師	専任教員 (実務経験のある看護師)
開講年次	2年次	単位数・時間数	1単位・15時間
科目目標	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響をふまえ、小児の検査処置の苦痛を最小限にし、安全・安楽に行うための援助方法を理解する。		
使用テキスト	系統看護学講座「小児看護学概論 小児臨床看護総論」医学書院 系統看護学講座「小児臨床看護各論」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. アセスメントに必要な技術	4	1 コミュニケーション 2 バイタルサイン測定 1) 体温 2) 呼吸 3) 脈拍 4) 血圧	校内実習
2. 子どもの検査・処置における看護師の役割と看護援助	11	1 子どもにとっての検査処置体験 2 子ども診察に伴う看護技術 1) 与薬 2) 注射・輸液管理 3) 採血 4) 採尿 5) 骨髄穿刺・腰椎穿刺 6) 吸引・酸素療法・吸入療法 7) 救急処置(心肺蘇生法) 3 子ども苦痛を緩和するための看護 試験	DVD 視聴 校内実習